

# 若手研究者育成のためのワークショップ

## 第8回細菌学若手コロッセウム 終了報告書

平成 26 年 8 月 6 日から 8 日の 3 日間にわたり、第 8 回細菌学若手コロッセウムをホテルニセコいこいの村（北海道虻田郡ニセコ町）にて開催し、無事に終了致しましたので、ご報告申し上げます。

本会は、北海道有数のリゾート地でありながら夏期は比較的安価に利用できるニセコ町のホテルにて開催されました。会場は新千歳空港、札幌市内から離れているものの、参加者の多くが本会で手配した送迎バスを利用してスムーズに会場に到着することができました。御陰様をもちまして、本会では一般・指定演題は全て口頭発表で 55 題の多様かつ興味深い研究発表が行われ、さらに特別講演 2 題およびランチョンセミナー 3 題のご講演をいただき、述べ参加者も 94 名と盛況のうちに会を終えることができました。

第 1 日目は、北海道システム・サイエンス株式会社によるランチョンセミナーとして微生物ゲノムシーケンスに係る機器と技術の最新知見をご紹介いただきました。一般演題は、“環境・生態”ならびに“毒素・タンパク質”から 10 題の研究発表が発表され、例年通り活発な質疑応答がなされました。続いて、特別講演①として北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターの高田礼人先生より「ホットゾーンのウイルス研究とバイオセーフティーレベル 4」と題して、エボラ出血熱研究の最前線についてご講演をいただきました。講演終了後には、高田先生の指導のもと、BSL4 施設で使われる陽圧型防護服の試着体験を企画していただきました。参加者からは、普段参加する学会ではなかなか聞けない話を聞き、貴重な体験をすることができたと好評を頂きました。また、初日の夕食時間を利用して、これまでの細菌学若手コロッセウムで好評の研究室紹介を発展させ、参加者全員を対象とした自己紹介時間を設けました。制限時間 30 秒を駆使し、それぞれの趣向を凝らした自己アピールは大いに盛り上がりました。

第 2 日目は、一般演題“感染・免疫・ゲノム”から 10 題の発表がありました。さらに指定演題として、微生物学に関わる 5 つの学会等（細菌学会、共生微生物研究分野、ゲノム微生物学会、微生物生態学会、寄生虫学会）から気鋭の若手研究者を招聘し、各学会を代表する若手研究者により企画・進行される“エースセッション”が開催されました。エースセッションはそれぞれの研究領域を深く知ることによって所属学会を越えた交流を促進するのみならず、各会の「エース」と呼ばれる研究者の研究姿勢や熱意、プレゼンテーション手法を学ぶ場としても好評だったようです。昼食時にはランチョンセミナーとして、トミーデジタルバイオロジー株式会社より PacBio RSII シーケンサーの特徴と魅力についてご紹介いただきました。また、特別講演②として、多くの大学院生及び研究者から愛されている漫画「もやしもん」の作者である石川雅之氏をお招きし、専門的な話を一般に分かりやすく伝えるための考え方、創作にあたりどのように発想され作品にしていくのか等について、未発表作品を含めた資料を用いながらご講演をいただきました。講演中は演者と参加者とのコミュニケーションに重点が置かれた進行がなされ、会場が一体となって盛り上がった大変有意義な特別講演となりました。

第3日目には“環境・ゲノム・生態”、“転写・翻訳”、“環境・イメージング”ならびに“感染と宿主応答”のカテゴリから一般演題21題の発表がなされ、ランチョンセミナーでは株式会社テクノスルガ・ラボから微生物学研究のサポート体制について種々のご提案をいただきました。今回も細菌学若手コロッセウム若手奨励賞を設け、参加者全員による投票に基づいて最優秀賞1題と優秀賞2題を選考し表彰しました。また、今回は初めての試みとして、会場に託児室とベビーシッターを配置しました。利用者は2名、それぞれ0歳と2歳のお子様をお連れになり参加され、その託児費用は全額を本会事務局で負担させていただきました。託児室の設置は、男女問わずこれから子供を持ち研究を続けようとする若手研究者からも強く望まれていることが分かり、高い評価をいただきました。

本会は今年で第8回目を迎え、今後の研究分野発展に資する会とはどのようなものか、を常に考えながらこれまで一步一步前進してきました。私達は、科学研究において多様な人材が広がりをもって裾野を形成すること、さらに、多様な研究スタイルや着眼点について見識を深め、互いにそれを受け入れる土壌があつてこそ細菌学の新たな発展が培われると感じています。本会で特別講演ならびにエースセッション等の企画立案を通し、所属学会横断的な交流促進に焦点を当てたことは時宜を得たものであり、参加者から寄せられたアンケートにも、多分野間の交流を楽しみ、自身の輪の広がりを実感したことを喜ぶ声が多数寄せられました。本会は微生物学に携わる若手研究者が一丸となり叡智を集めて企画したものです。今後の細菌学の礎を築く若手研究者の育成に貢献することを目指し、研究分野や興味の範囲を超えた学び合いと交流の場を提供できた点できわめて有意義な会になったと考えています。

本会の開催にあたり、日本細菌学会「平成26年度若手研究者育成のためのワークショップ」による多大な支援をいただき、誠にありがとうございました。今後も若手研究者の育成と活性化を通して細菌学分野全体へ貢献していきたいと考え、細菌学若手コロッセウムの開催を継続していく所存です。本会をより魅力的かつ洗練された会にしていきたいと考えますので、今後とも本会開催へ継続的なご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

最後に、第8回細菌学若手コロッセウムを、来年度以降の本会への参加が待ち遠しくなるような、活気に満ち溢れた会にさせていただいた全ての参加者の皆様とご支援いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

平成26年11月1日

第8回細菌学若手コロッセウム

ワーキンググループ

大西なおみ（北海道大学）

鹿山 鎮男（広島大学）

田端 厚之（徳島大学）

中根 大介（学習院大学）

中山 秀喜（京都産業大学）

松尾 美樹（鹿児島大学）

世話人代表

東 秀明（北海道大学）